

## 公社等外郭団体の改革方針（案）

団体名	(財)印旛沼環境基金		所管所属名	環境生活部水質保全課	
事業内容	<p>印旛沼の水質浄化を推進し、もって印旛沼周辺の環境保全に資することを目的とし、主に次の事業を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 印旛沼及び流域河川の調査研究</li> <li>・ 水質保全を目的としたボランティア活動等への援助</li> <li>・ 水質保全のための各種啓発活動</li> </ul>				
財務状況	年度（単位：千円）		H18	H19	H20
	貸借対照表	総資産	581,912	580,327	579,603
		負債	9	114	54
		資本	581,903	580,213	579,549
		累積損益	15,847	13,755	12,707
	損益計算書	総収入	15,465	8,942	7,420
		経常損益	12,895	1,690	664
		当期損益	12,895	1,690	664
		減価償却前当期損益	12,895	1,649	609
		借入金残高	0	0	0
	県財政支出	委託料	0	0	0
		補助金・負担金	0	0	0
		その他	0	0	0
県関与の必要性 団体の必要性	<p>（団体の必要性）</p> <p>印旛沼の水質浄化を推進し、印旛沼周辺地域の環境保全に資するため、県・流域15市町村及びその他からの出捐金等を基金として、その運用益により各種啓発事業等を行っている。</p> <p>主な事業として、印旛沼及び流域河川の調査研究、水質保全を目的とした各種モニタリング、ボランティア活動等への援助、水質保全のための各種啓発活動等を実施しており、(財)印旛沼環境基金の果たす役割は大きい。</p>				
	<p>（県関与（人的・財政的）の必要性）</p> <p>事務局は印旛郡市広域市町村圏事務組合が担っており、県としては、出捐金を除いて、継続的な人的・財政的関与は行っていない。</p>				
過去の見直し方針	分類	経営改善			
	<p>各事業の実施にあたり、財源の確保に努めるとともに、一層の効率的かつ効果的な取組を推進する。</p> <p>具体的には、事業の有料化（例：出版物の有償頒布）、民間団体等からの寄付やイベント等での賛助金の募集について検討する。</p>				

<p>現在までの取組状況</p>	<p>出版物については一部有償頒布とするなど、事業の有料化を実施し、財源の確保に努めている。</p> <p>今後については、民間団体等からの寄付や、各種イベントにおける賛助金の募集等について検討している。</p>	
<p>役職員の状況</p>	<p>常勤役員      14 0名    21 0名</p> <p>うち県OB    14 0名    21 0名</p> <p>うち県派遣   14 0名    21 0名</p>	<p>常勤職員      14 0名    21 0名</p> <p>うち県OB    14 0名    21 0名</p> <p>うち県派遣   14 0名    21 0名</p>
<p>課題</p>	<p>運用益の大幅増が見込めない中、今後の事業展開に必要な財源の確保に努めるとともに、各種事業の一層の効率的・効果的な取組を検討・推進する必要がある。</p>	
<p>今後の改革方針（案）</p>	<p>分類</p>	<p>経営改善</p> <p>当団体については、出捐金を除き県からの財政的負担はない。また、人的支援についても、県職員の派遣は行っていない。</p> <p>しかしながら、事業予算のほとんどを占める運用益について大幅な増が見込めない状況にあって、今後の事業展開に的確に対応していくため、出捐金の運用改善（条件の良い地方債の購入）、民間団体等からの寄付やイベントの賛助金の募集等による財源の確保や、ボランティア団体等への援助金や各事業の経費配分の見直しなど、より効率的・効果的な事業推進について、必要に応じて団体を指導していく。</p>